

| | | | | | | | |
|--------|-------------|----------------------|-----|--------------------|-------------|------------|-------------|
| 事務事業名 | 企業チャレンジ推進事業 | | 所属部 | 政策企画部 | 所属課 | 政策推進課 | |
| 総合計画体系 | 政策名 | 〈I〉みんなで築くまち〈協働・行政経営〉 | | 所属G | チャレンジ創生G | | |
| | 施策名 | 〈01〉市民が主役のまちづくりの推進 | | 担当者名 | 武田 堅治 | | |
| | 目的・対象 | 市民 | 意図 | まちづくりの課題を主体的に解決する。 | | | |
| | 基本事業 | 〈002〉まちづくりの人材確保 | | 予算科目 | 会計 | 0:1:10:0:1 | |
| 目的・対象 | 市民 | 意図 | 款 | | 0:1 | 大事業名 | 企画総務管理事業 |
| | | | | 項目 | 0:5:3:5:2:0 | 中事業名 | 企業チャレンジ推進事業 |

1 現状把握【DO】

(1) 事務事業の概要

| | |
|--|--|
| ① 対象(誰、何を対象にしているのか) | ② 意図(対象がどのような状態になるのか) |
| ① 地域自主組織、市民 ② 市内外の企業 | ① 企業と連携・協働して地域課題解決に取り組む ② 社会課題を解決する新事業を開発する |
| ③ 事業内容(期間限定複数年度事業は全体像を記述) | |
| 事業期間 <input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (R元 年度～) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度～ 年度) | ・社会課題の解決をめざす企業等を誘致し、地域自主組織や市内事業者等とともに、地域課題解決に資する新たな事業創出を図る。 ・企業チャレンジを推進するための人材を配置し、具体的な事業案件(事業モデル)づくりと、企業チャレンジの制度設計の具体化(地域とのマッチングの方法、企業からの資金・人材抛出のルールづくり等)を進める。 |
| ④ 主な活動 | ⑤ これまでの改革・改善経緯 |
| R3年度実績(R3年度に行った主な活動) | (この事務事業に関してこれまでどのような改革改善をしているか?) |
| ・企業との連携協定の締結 ・各企業の事業案件サポート ・企業等からの問い合わせ、視察対応 ・企業の社員研修の受入れ ・企業チャレンジ推進連絡会の開催 | ・地域自主組織への個別訪問・ヒアリングを実施し、地域課題・ニーズの洗い出しと、企業チャレンジへの理解促進を図った。 |

(2) 事務事業の指標

| 成果指標 | 単位 | R元年度(実績) | R2年度(実績) | R3年度(実績) | R4年度(計画) |
|--------------------------------------|----|----------|----------|----------|----------|
| ア 連携協定を締結した企業数 | 件 | 5 | 2 | 3 | 2 |
| イ 社会実装件数(実証事業を経て、新たに地域にサービス提供された事業数) | 件 | 0 | 2 | 0 | 2 |
| ウ | | | | | |
| エ | | | | | |

(3) 事務事業のコスト

| ① 事業費の内訳 (R3年度決算) | | ② コストの推移 | | 単位 | R元年度(決算) | R2年度(決算) | R3年度(決算) | R4年度(計画) |
|-------------------|----------|----------|-------|----|----------|----------|----------|----------|
| 報酬・手当 | 2,196千円 | 財源内訳 | 国庫支出金 | 千円 | 1,800 | 997 | 1,110 | 900 |
| 旅費(費用弁償) | 24千円 | | 県支出金 | 千円 | | | | |
| 修繕費 | 56千円 | | 地方債 | 千円 | | | | |
| 手数料/公課費 | 43千円 | | その他 | 千円 | 2,163 | 1,212 | | |
| 負担金(地域活性化起業人) | 14,000千円 | | 一般財源 | 千円 | 3,500 | 9,800 | 15,209 | 17,120 |
| 合計 | 16,319千円 | | 事業費計 | 千円 | 7,463 | 12,009 | 16,319 | 18,020 |

2 事後評価【SEE】

| | |
|-----------------|---|
| ① 事業実績における成果 | ・木次地区モビリティ運行について、地域主体で実証や資金調達(GCF)に取り組まれている。 ・木次商店街のワーキングスペース「オトナリ」では都市圏企業人のワーケーション利用が増えているほか、子連れオフィスでは子育て中の女性の利用が拡大している(7名が従事)。 ・新たに3社(住友生命・プリベント・ソウルドアウト)と連携協定を締結したほか、複数の企業が雲南での事業展開を検討いただいている。 |
| ② 事業実施するうえでの課題 | ・実証段階から本格的な事業展開に進むには、実施体制づくりと資金調達が課題となるため、これらを支援する仕組みを検討していく必要がある。 |
| ③ 課題解決に向けた改革改善等 | ・引き続き、地域自主組織と連携を深め、実証事業の実施や新規案件の組成を図っていく。 ・企業チャレンジの価値、めざす姿の言語化を行うとともに、事務局の自立・自走に向けた体制整備を進める。(企業研修・視察の受け入れや、企業版ふるさと納税を活用したマネタイズモデルの検討) |